



吉田キャンパス 散策 Map

①



石積み堀を巡らせた正門一帯は学生、教職員の心のよすが、思い出の風景、大学の顔として位置付けられている。また、この場所は、学生、来訪者の絶好の記念撮影スポットとなっている。

②



ロンドン大学と山口大学との学術交流協定締結を記念し、佛業を成し遂げた5人の若者を顕彰し、長州五傑記念碑が設置されている。彼らは日本から英国への初めての留学生で、その後の日本の近代化に大きく貢献している。また、この記念碑の右側にはイギリス大使館から寄贈された記念樹(オーク)が植えられている。

③



美しい彩りの錦鯉が泳ぎ、遊歩道を進めば池を一周できる。休憩用に東屋やイスが備えられており、休息、思索の場として利用できる。6月上旬～下旬にかけてハナショウブが見頃をむかえる。

④



教育学部玄関前には樹齢100年を超えるカイヅカイブキが2本あり、写真的イブキは幹回り2m、葉張り6m、樹高10mと学内に残存するイブキの中で最大、最高級のものとされている。

⑤



明治7年に設置された教員試験所から100周年を記念し、旧山口師範学校にあった皇太子殿下行啓(大正15年)の記念碑を移築したもの。

⑥



山口大学構内には、縄文時代から江戸時代にかけての県内でも有数な集落遺跡が分布しており、とりわけこの区域一帯は、弥生時代中期から後期の堅穴住居の他、河川、溝、土壙などが多数発見されている。

⑦



この火山弾は30～40万年前、山口県北西部に分布している阿武火山群の一つ、伊良尾火山の噴火で放出されたものである。火山弾は噴火口から空高く噴き上げられたマグマのしぶきが空中で回転しながら固まつたもので、特徴的な形や表面の模様、内部構造をしている。

⑧



明治38年、山口大学経済学部の前身である山口高等商業学校が創設され、商品学の授業の研究資料として各種商品の収集が始まられ、平成7年全国的にも珍しい商品資料館が建設された。

東亜経済研究所は、平成20年に新棟が設立され、山田孝太郎記念館の名前で親しまれている。これは、(株)ヤマコー代表取締役山田宏氏が、祖父の「母校への思いを形に」との願いから、寄付したことによるものである。

⑨



埋蔵文化財資料館では、吉田団地で出土した土器等の展示を行っている。

⑩



明治38年に設立された山口高等商業学校のあった建設の地に、第4代監督健治校長のブロンズ胸像を戴いて設置されたもの。胸像は第2次世界大戦のさなか、銅幣供出され、台座のみが残されていた。平成20年の山田孝太郎記念館の竣工に際し、台座正面に鷲尾松長のレリーフと、台座に萩ガラスを用いて旧講堂の尖塔を模した照明器具をここに設置した。

⑪

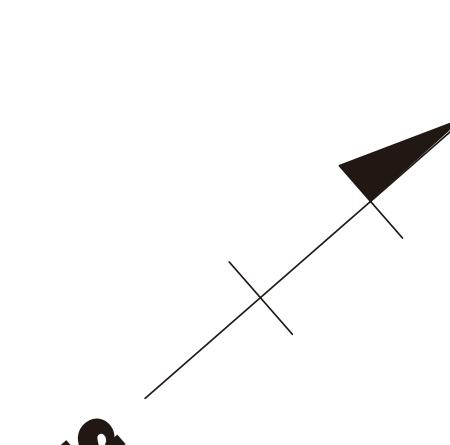


上流からの自然水を利用した日本の池と、その周辺にはヤナギ、ツツジ、サルスベリ、ヤマモモ、ハナショウブ等の花木が一年中楽しめ、錦鯉が泳ぐ安息の場となっている。

⑫



平成22年4月里山頂上に共育の丘を整備した。頂上には長門市出身の彫刻家大井秀規氏の作品『Gravitation (知の集積)』が設置されており、また、吉田キャンパスや山口市内が一望できる。

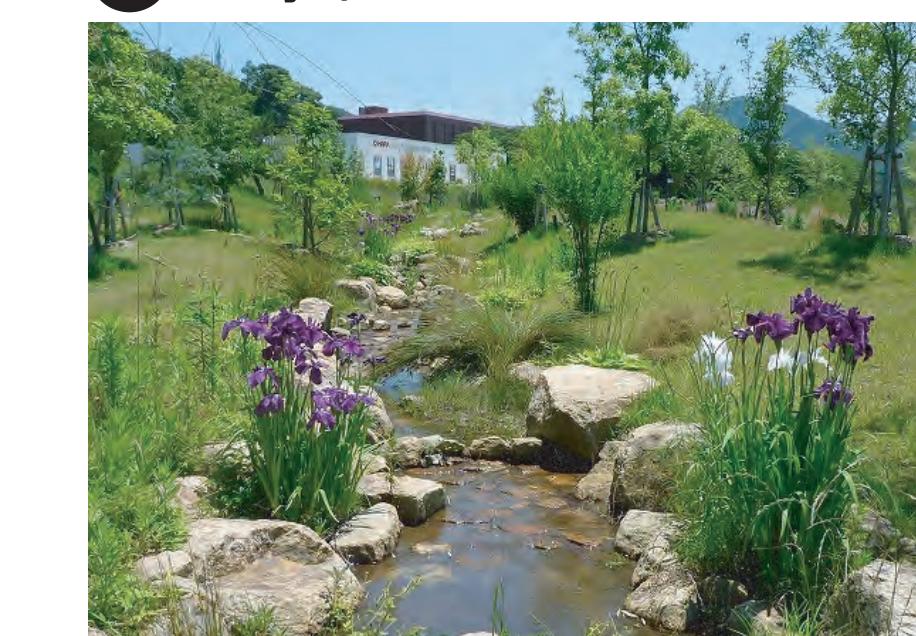


⑬



周南市黒髪島の御影石を用いた方位盤は、本学教育学部上原一明氏の作品である。五大陸と六大州をイメージしたもので、本学と交流のある外國の大学(姉妹校、学術提携校、学部間協定校等)の都市名が刻印され、散策に訪れた人々のウォーキングコースに最適である。

⑭



平成19年度から学生によるホタルプロジェクトが発足し、成虫の採取、産卵、放流水での一連の活動を行っている。この活動により、毎年5月下旬～6月上旬には多くのホタルの見ごろをむかえる。大賀ハスは午前8時ごろをピークに見過ぎまで咲き、直径20cmもの大輪の花を咲かせる。

⑮



平成21年に久永寺(山口市)より大賀ハス(古代ハス)の株を譲り受けたもので、毎年6月下旬～8月中旬にかけて見ごろをむかえる。大賀ハスは午前8時ごろをピークに見過ぎまで咲き、直径20cmもの大輪の花を咲かせる。